

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1971000128
法人名	社会福祉法人 ぎんが福祉会
事業所名	グループホーム 雀のお宿
所在地	〒 400-0105 山梨県甲斐市下今井1730番地 電話番号 0551-28-7575

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年7月30日	評価確定日	平成20年9月3日

【情報提供票より】平成20年7月9日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成10年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13人	常勤	2人 非常勤 11人 常勤換算 8.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無 有りの場合 償却の有無 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無			
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1000 円			

(4) 利用者の概要 平成20年7月1日 現在

利用者人数	9 人	男性	2 人	女性	7 人
要介護1	1 人	要介護2	2 人		
要介護3	3 人	要介護4	1 人		
要介護5	2 人	要支援2	0 人		
年齢	平均 83 歳	最低	64 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	敷島クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年8月5日

甲斐市、南西に位置するこのグループホームは、以前民家があった場所に立地しており、古風な門構えは童話の「雀のお宿」を思わせる。広い敷地内には、居宅介護支援センター、デイサービスセンターなどが隣接しており、連携が密である。また、竹やぶや果樹があり、季節には食材に利用する他、御近所の付き合いにも役立っている。グループホーム2階は障害者のグループホームになっており、1階の利用者との交流もあり、お互いにより刺激となっている。管理者は利用者の人生の終末期を幸せな気持ちで送ってほしいという願いのもと、きめ細かな介護を職員とともに展開している。また、開所当初からの職員も多く、落ち着いた雰囲気がある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 市内グループホーム会議を通して、研修に参加することや、市に出向くことで情報交換をし、市との連携を深める努力がみられる。また同業者同士の交流の中で、問題点の共有をし、介護の質の向上につなげる努力をしている。
	① 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を生かし介護の質の向上に役立っているところであるが、今後は全職員を巻き込んだ自己評価の意義を把握し、取り組む努力を期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 秋に行われるグループホーム主催の祭りを企画の段階から運営推進会議に投げかけるなどの地域を巻き込んだ活動ができており、地域とのつながりが深まってきている。また、防災対策も地域の協力を得ながら行われている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 年1回の家族会の開催や独自のアンケートを家族に出してもらうなど、あらゆる機会をとらえて意見、苦情、不安を吸いあげる努力がみられる。家族も年に2回の庭園の草取り作業を積極的に参加するなど協力がみられ、信頼関係も強くみられる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近所からは農作物のいただきものがあり、ホームからも庭園でとれた作物を近所へおすそ分けするなどの交流が日常的に見られ、利用者を見守るという雰囲気が地域にもできている。

2. 調査報告書

事業所名：グループホーム雀のお宿

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人なりの生活に寄り添い安心した尊厳ある暮らしを保証する」というホーム独自の理念を掲げている。地域との関わりが強くもたれているが、理念の中には地域密着型サービスとしての地域との関わりの大切さについては表現されていない。	○	地域との関わりが強くもたれており、地域でも利用者を見守る雰囲気を感じられる。理念の中にも地域との関わりを大切にしていることを表現し、尚一層よりよい理念をつくりあげていくことを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、居間、事務室に理念を掲げ、日常的に目にする事ができている。また会議の際にも必ず確認するよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の常会、清掃作業、運動会、文化祭等に参加し地域との交流を深めている。また日常的にも収穫物のやりとりなどを近所としている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価から出された問題点を推進会議に提出して家族、地域から意見をもらいながら、職員会議でどう改善していくか話し合っている。 自己評価については、管理者とケアマネージャーのみ作成しているが、全職員が閲覧できるようにしている。	○	自己評価を全職員で行い、サービスの向上に努めていくことを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成18、19年度、5回ずつ開催されてきた。食事の試食会、雀祭り(年1回さつま芋の収穫祭)は計画の時点から意見をもらっている。今年度は音楽療法を見学していただいた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市開催のグループホーム会議への参加、市役所に出向いて現場についての情報交換をしている。また、市の敬老会への参加もしながら、連携をとり、サービス向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	文章を添えて月1回近況を報告している。その際、写真、請求書、ケアプランも合わせて送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年1回開催している。また、独自のアンケートを家族に出してもらうようにしている。防災訓練の見学なども家族にしている。その他、会議の中で出た意見を実施する際にも見学等してもらうようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所当初からの職員は3人位いて落ち着いた生活ができている。異動がある場合は引継ぎ期間を充分にとっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修は、職員1名が参加するようにしている。また、報告書を提出している。個人的に受けた研修は希望を出して参加している。救急救命研修は全員が受けている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会、市内グループホーム会議へ参加している。また、市内の2、3のグループホームに秋まつりの案内を送付して参加してもらっている。また、こちらからもクリスマス会に2～3人位参加するなかで、介護計画作成をどうしているか等疑問点を出し合える仲になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅に訪問し、馴染みの関係を築くようにしている。また、見学してもらったり、体験入所してもらい雰囲気に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から出てきた思い出話を聞きながら、また、一緒にうどんやいなり寿司を作る中で、共に学んだり支えあう関係をつくっている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から意向や思いを言葉や表情から推測し確認している。また、独自のアセスメントシートを使用し、家族より利用者の様子をきめ細かく情報収集している。現在は情報をより明確に整理・把握するために、アセスメントシートをセンター方式に変えることを検討中である。	○	一人ひとりの意向や思いをより明確に把握できるように、センター方式への変更の早期実現に期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の思いを確認し、ケアカンファレンスで職員の意見交換を行い、利用者の現状にあった介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	カンファレンスシートを活用し、利用者の思いの変化や状況の変化を記入し職員間で共有している。また、その都度介護計画を見直している。変化の見られないケースについても、1か月に一度は必ず見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や本人の意向に合わせ外泊などにも対応している。また、地域のニーズにも居宅支援センターと協働して対応している。敷地内にあるデイケアセンターとの交流もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の意向に合わせた「かかりつけ医」の受診をしている他、必要時専門医の受診も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開所以来、看取りケースはないものの、入居当初より本人、家族の意向を確認しながら態勢づくりをしている。また、状況に合わせ、医師との連携を密にとったり勤務体制も柔軟に対応できるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員同士、言葉使いには充分気をつけている。介護時や誘導時もさりげない言葉かけをしている。また、会議でも個人情報の取り扱いについて確認している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、就寝時間等、個々の習慣に応じた対応がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備は利用者の興味を引き出し、簡単なことでも声かけをしながら一緒に行う場面がみられる。また、一緒に食事をしながら楽しく和やかな雰囲気をつくっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、日曜日を除く午後、入浴しているが、本人の希望や状況にあわせて午前や夜間の入浴援助もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意とするところをさりげなく引き出し、負担とならない程度に、縫い物を頼んだり、台所仕事、畑仕事を頼んだりしている。	○	現状でも利用者の得意分野を引き出しているが、尚一層、利用者の活力を引き出すための支援を期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見など季節に応じた外出支援を行っている。また、近くにある広い公園へ散歩に出かけているが、集団での外出支援が多い。	○	利用者一人一人に合った外出の支援をし気分転換やストレス発散、五感刺激の機会をつくっていくよう期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や窓は開放していることが多い、ホームの構造上、裏口は死角となるため、一定時間以外は施錠されることが多い。	○	利用者の状況や勤務体制に応じて裏口の施錠をする時間帯を短くしていくよう期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回防災訓練を行っている。消火栓や消火器の使用方法を全職員が学んだ。また、近所の協力を得られるよう、地域の防災訓練にも参加している。飲料水の確保はできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に応じてミキサー食やきざみ食にして対応している。水分は食事時、午前10時、午後3時、午後7時半のティータイムや入浴後に提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭園の緑が窓からながめられたり、季節を感じられるよう草花が飾られている。 また行事の写真や作品なども飾られて明るい雰囲気になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物を持ち込んで、居心地のよいように工夫している。 絵の好きな利用者は油絵やデッサンを飾るなど個性的であった。また、寝具もベッド、布団、自分の好みのものを使用している。		